

武士の登場

軍事部門を主に担う貴族を「^{つわもの}兵（軍事貴族）」と呼ぶ。平安時代の地方（平安京の門から一步でも出た場所）は不便で粗野だが、実力次第でどこまでも活躍できる場が開けていた。摂関家の支配で、都での出世を望めない軍事貴族に、地方は大変魅力に富んでいた。まさに田舎も「住めば都」であった。

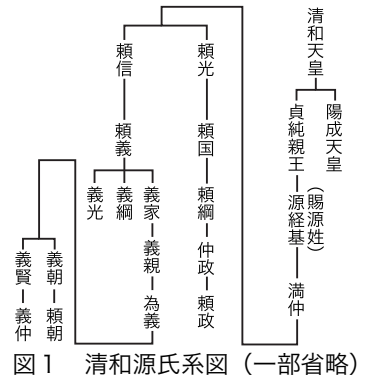
○戦う貴族と仕える貴族

●軍事部門を担う貴族

中・下級貴族のうち、軍事部門を担う者は兵（軍事貴族）と呼ばれた。

⇒都での出世が望めない彼らには、次の2つの道が開かれていた。

- ①朝廷との接触を減らしながら、辺境の地方に土着
- ②都やその周辺に根拠地を置き、宮中警備・国司を務めて朝廷との関係を維持



●天皇の血筋を引く貴族

親王（天皇の子弟）の生活は、朝廷の収入でまかなった。

⇒時には親王に氏姓を与えて臣下とし、朝廷の負担を軽減してきた。

◇天皇や親王など皇族は氏姓なし

嵯峨・清和・醍醐天皇の子（2世）の氏—⁽¹⁾ _____ 氏（嵯峨源氏・清和源氏・醍醐源氏）
 桓武天皇の孫・ひ孫（3世・4世）の氏—⁽²⁾ _____ 氏（桓武平氏）

◇源…天皇の血統に源流する氏族の意

◇平…桓武の別称「平安宮に^{たいらのみや}御坐し^{おわしまし}天皇^{すめらみこと}」に由来

嵯峨源氏の源^{まこと}信（^{おうてんもん}応天門の変）や醍醐源氏の源^{たかあきら}高^{あんな}明（^{あんな}安和の変）は政界で活躍し、
 清和源氏・桓武平氏は軍事で活躍した。

◇清和源氏は摂関家に仕えて勢力を伸ばし、特に源^{みつなか}満仲は源高明を密告して失脚に関与

●地方に土着する貴族

9世紀末～10世紀、軍事貴族は賊の鎮圧に国司として地方へ派遣された。

⇒国司は行政官のため、軍事的な統率・指揮権を帯びる

⁽³⁾ _____ や⁽⁴⁾ _____ を別に兼任する形で賊の鎮圧にあたった。

◇⁽³⁾ が鎮圧できない場合、別に⁽⁴⁾ を派遣

任期後に土着し、在庁官人として働きながら田地経営する軍事貴族もいた。

⇒彼らは受領と対立すると、田地を守るために武力を活かして抵抗した。

⇒受領に悩む有力農民は、軍事貴族の武力を頼って従者となった。

地方に土着した軍事貴族として、次の2人が有名である。

①上総国国司として盗賊鎮圧にあたった桓武平氏の祖高望王^{たかもちおう}

②伊予国国司として海賊鎮圧にあたった藤原純友^{すみとも}

⇒高望王の子孫、藤原純友は後に大きな反乱を起こした。

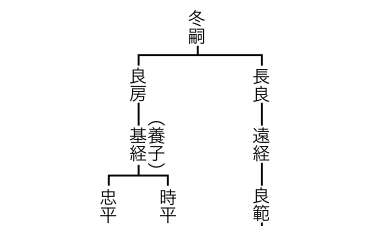
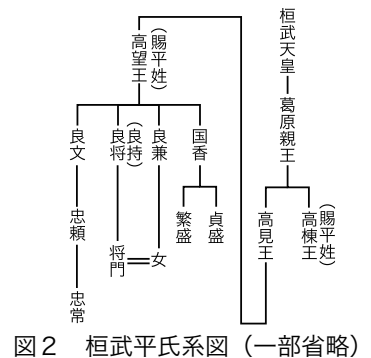


図3 藤原純友系図 (一部省略)

○大乱と社会変化

●東と西の大乱

<⁽⁵⁾ _____ (935~940年) >
 一族内で争った⁽⁷⁾ _____ (高望王^{たかもちおう}の孫)は、
 やがて東国一帯を舞台に争乱を引き起こした。

(7)は関東を制圧し、⁽⁸⁾ _____ と称した。

平⁽⁹⁾ _____ と押領使の藤原⁽¹⁰⁾ _____ が、
 (7)を討ち、争いは鎮圧された。

同時期に発生した2つの乱は、併せて⁽¹³⁾ _____ と呼ばれる。



図4 平将門夫妻の像(神像)

<⁽⁶⁾ _____ (939~941年) >
 伊予国で海賊鎮圧をした⁽¹¹⁾ _____ は、
 やがて海賊の首領として略奪をおこなった。

939年、(11)は大宰府を襲撃した。

追捕使の小野好古・源⁽¹²⁾ _____ が、
 (11)を討ち、争いは鎮圧された。



図5 日振島(純友の根拠地)

●ピラミッド型の組織

承平・天慶の乱の平定に貢献した源経基・平貞盛などの有力な軍事貴族は、
 多くの開発領主(有力農民や軍事貴族)と主従関係を結んでいった。

→10世紀後半、彼らを頂点とするピラミッド型の組織⁽¹⁴⁾ _____ が形成された。

⇒やがて清和源氏・桓武平氏は複数の(14)をまとめて武家を組織し、

また、武家の統率者は⁽¹⁵⁾ _____ と呼ばれた。

◇(14)に属す郎党以上の上位層が武士



図6 初期の武士

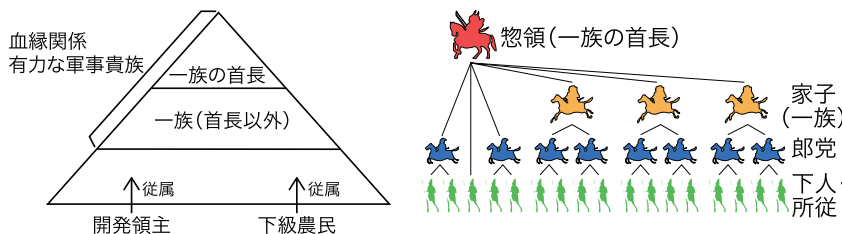


図7 武士団の構造



図8 所従(右の2人)

●武士の活躍

<宮中での活躍>

⁽¹⁶⁾ _____ …9世紀末以降、軍事貴族が主に担った宮中の警備員

◇本来の名称は(16)だが、10世紀後半の「武士」登場で「滝口の武士」と呼称

<九州での活躍>

⁽¹⁷⁾ _____ …1019年、女真族(刀伊)が九州北部を襲った事件

…藤原隆家(藤原伊周の弟)が九州の武士団を指揮して撃退

◇女真族…沿海州地方に住んでいた民族で、朝鮮語で刀伊とも呼称